



ユニプレス株式会社

2018年度第2四半期決算報告

2018年11月16日 代表取締役 社長執行役員 吉澤 正信



UNIPRES CORPORATION



2018年度第2四半期決算について

2018年度見通しについて

将来に向けた基盤作り



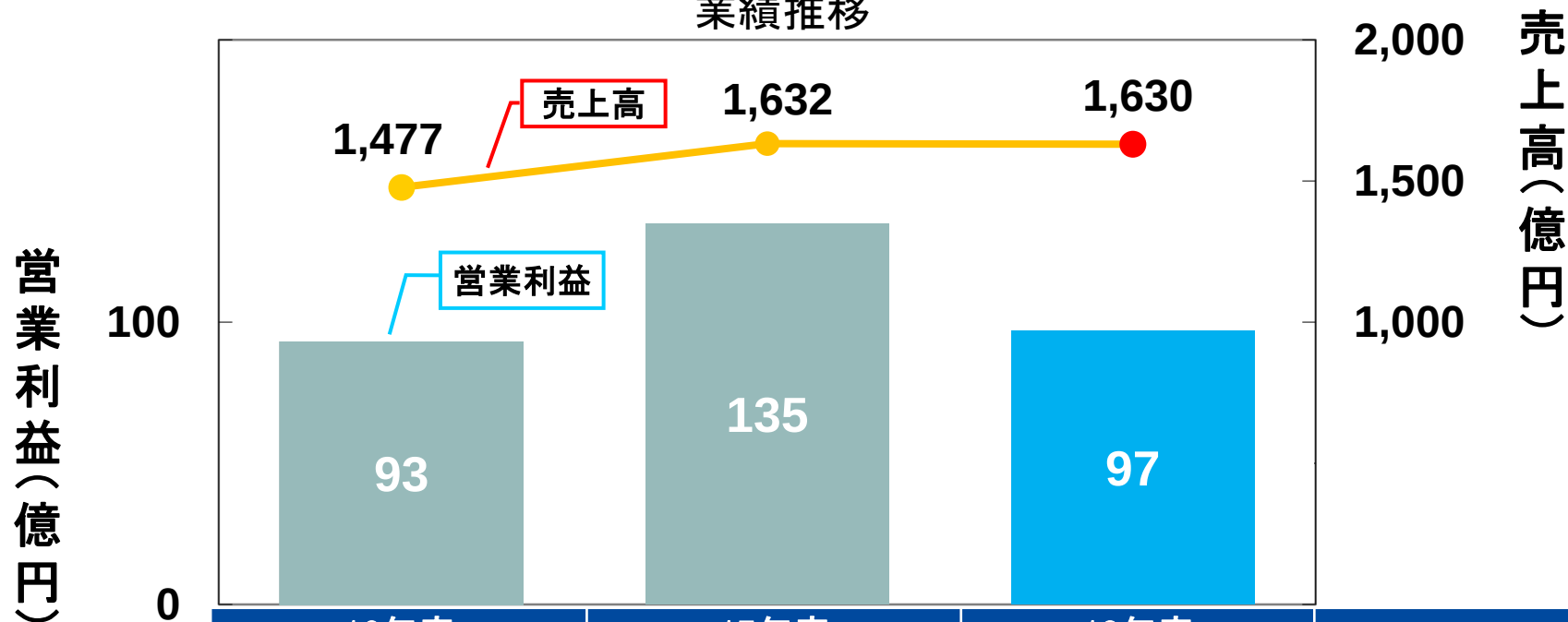
2018年度第2四半期決算について

1. 売上高は、円安に伴う為替影響はあったものの、得意先の減産影響等により減収

2. 営業利益は、日本の合理化効果等はあったものの、得意先の減産影響等により減益

2018年度第2四半期連結決算サマリー

業績推移



	16年度 第2四半期	17年度 第2四半期 (A)	18年度 第2四半期 (B)	(B) - (A)
売上高	1,477	1,632	1,630	-2
営業利益	93	135	97	-38
経常利益	75	141	100	-41
親会社株主に帰属 する四半期純利益	38	81	60	-21

※ 売上高は、円安に伴う為替影響はあったものの、得意先の減産影響等により、2億円減収
 ※ 営業利益は、日本の合理化効果等はあったものの、得意先の減産影響等により、38億円減益

製品群別連結売上構成

(億円)

	2017年度第2四半期		2018年度第2四半期		売上高 増減額	構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比		
車体プレス製品	1,375	84.3%	1,349	82.7%	-26	-1.6%
トランスミッション製品	229	14.0%	244	15.0%	+15	+1.0%
樹脂製品	19	1.2%	19	1.2%	0	0.0%
その他	9	0.5%	18	1.1%	+9	+0.6%
合計	1,632	100%	1,630	100%	-2	—

※ 構成比に大きな変化は無し

得意先別連結売上構成

(億円)

	2017年度第2四半期		2018年度第2四半期		構成比 増減
	売上高	構成比	売上高	構成比	
日産自動車関連 小計	1,371	84.0%	1,366	83.8%	-0.2%
東風汽車	246	15.1%	291	17.9%	+2.8%
日産自動車	254	15.6%	206	12.6%	-3.0%
ジャトコ(海外拠点含む)	196	12.0%	194	11.9%	-0.1%
北米日産	201	12.3%	184	11.3%	-1.0%
メキシコ日産自動車	192	11.8%	174	10.7%	-1.1%
欧州日産自動車	126	7.7%	145	8.9%	+1.2%
日産車体	71	4.4%	74	4.5%	+0.1%
カルソニックカンセイ(海外拠点含む)	55	3.4%	53	3.3%	-0.1%
タイ日産自動車	10	0.6%	13	0.8%	+0.2%
ルノー日産インディア	15	0.9%	12	0.7%	-0.2%
鄭州日産	4	0.2%	7	0.4%	+0.2%
インドネシア日産	1	0.0%	3	0.2%	+0.2%

※ 中国の増産にともない、東風汽車の構成比が2.8%増加

得意先別連結売上構成

		2017度第2四半期		2018度第2四半期		構成比 増減	(億円)
		売上高	構成比	売上高	構成比		
日産自動車関連以外の得意先 小計		261	16.0%	264	16.2%	+0.2%	
内)ホンダ	米国ホンダ	34.8	2.1%	31.9	2.0%	-0.1%	
	英国ホンダ	23.7	1.5%	27.8	1.7%	+0.2%	
	メキシコホンダ	16.5	1.0%	15.4	0.9%	-0.1%	
	本田技研工業	20.3	1.2%	14.7	0.9%	-0.3%	
	インドネシアホンダ	11.8	0.7%	9.9	0.6%	-0.1%	
ルノー	ルノー	30.6	1.9%	26.6	1.6%	-0.3%	
	東風ルノー	20.5	1.3%	19.0	1.2%	-0.1%	
マツダ	マツダ	12.1	0.7%	11.6	0.7%	0.0%	
	メキシコマツダ	7.0	0.4%	7.2	0.4%	0.0%	
ダイナックス(海外拠点含む)		15.1	0.9%	13.8	0.8%	-0.1%	
アイシン・エイ・ダブリュ(海外拠点含む)		5.8	0.4%	13.5	0.8%	+0.4%	
SUBARU		5.7	0.3%	7.3	0.4%	+0.1%	
NSKワーナー		1.8	0.1%	2.5	0.2%	+0.1%	
トヨタ車体(海外拠点含む)		2.4	0.1%	2.3	0.1%	0.0%	
三菱自動車工業		0.5	0.0%	1.7	0.1%	+0.1%	
ダイハツ工業		1.4	0.1%	1.4	0.1%	0.0%	
UDトラックス		2.1	0.1%	1.3	0.1%	0.0%	
日野自動車(海外拠点含む)		0.8	0.0%	1.1	0.1%	+0.1%	
いすゞ自動車		0.8	0.0%	0.9	0.1%	+0.1%	
スズキ(海外拠点含む)		0.5	0.0%	0.8	0.0%	0.0%	
豊田鉄工		0.9	0.0%	0.6	0.0%	0.0%	

※ アイシン・エイ・ダブリュの構成比が0.4%増加



営業利益の増減要因

(億円)

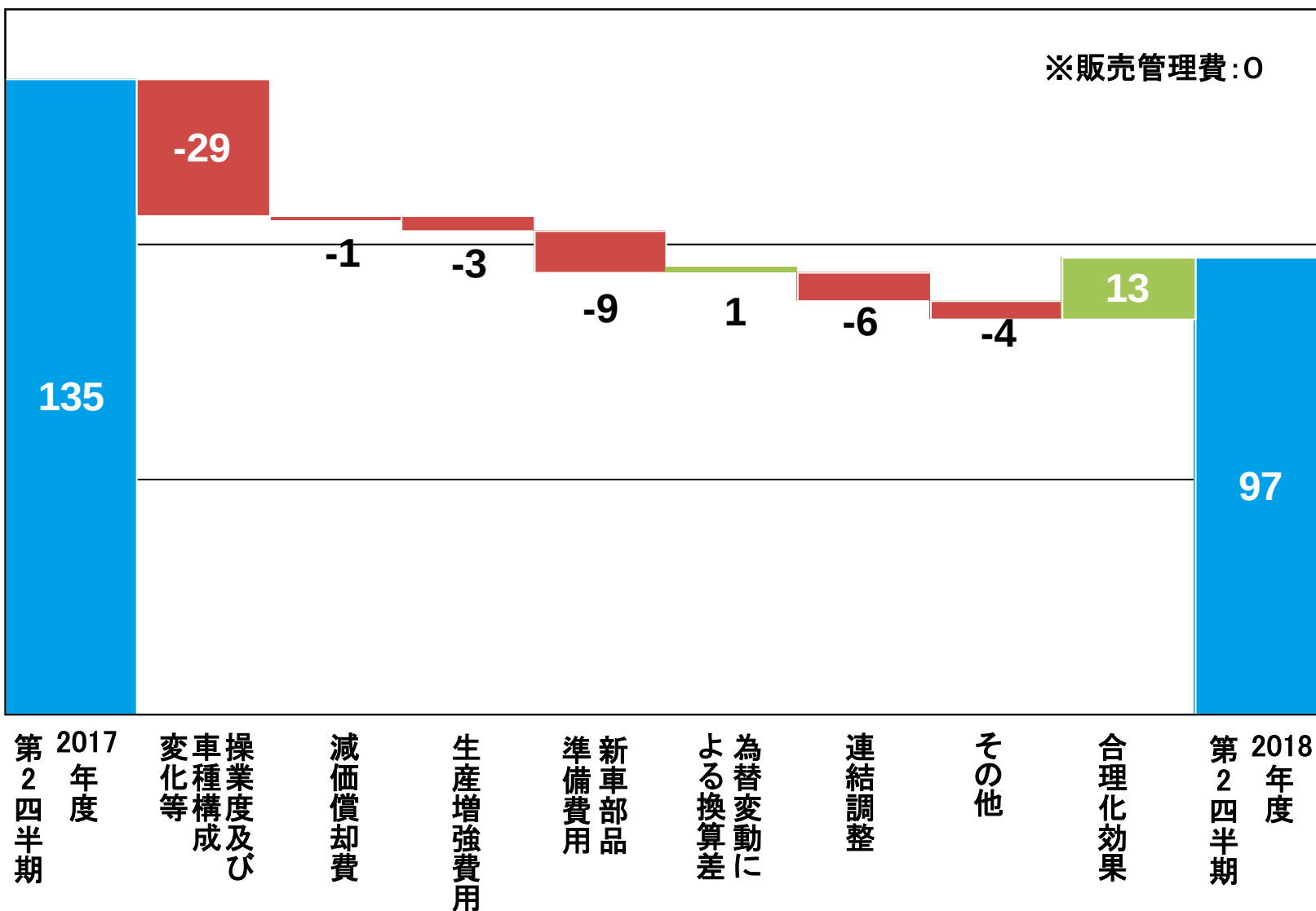
150

100

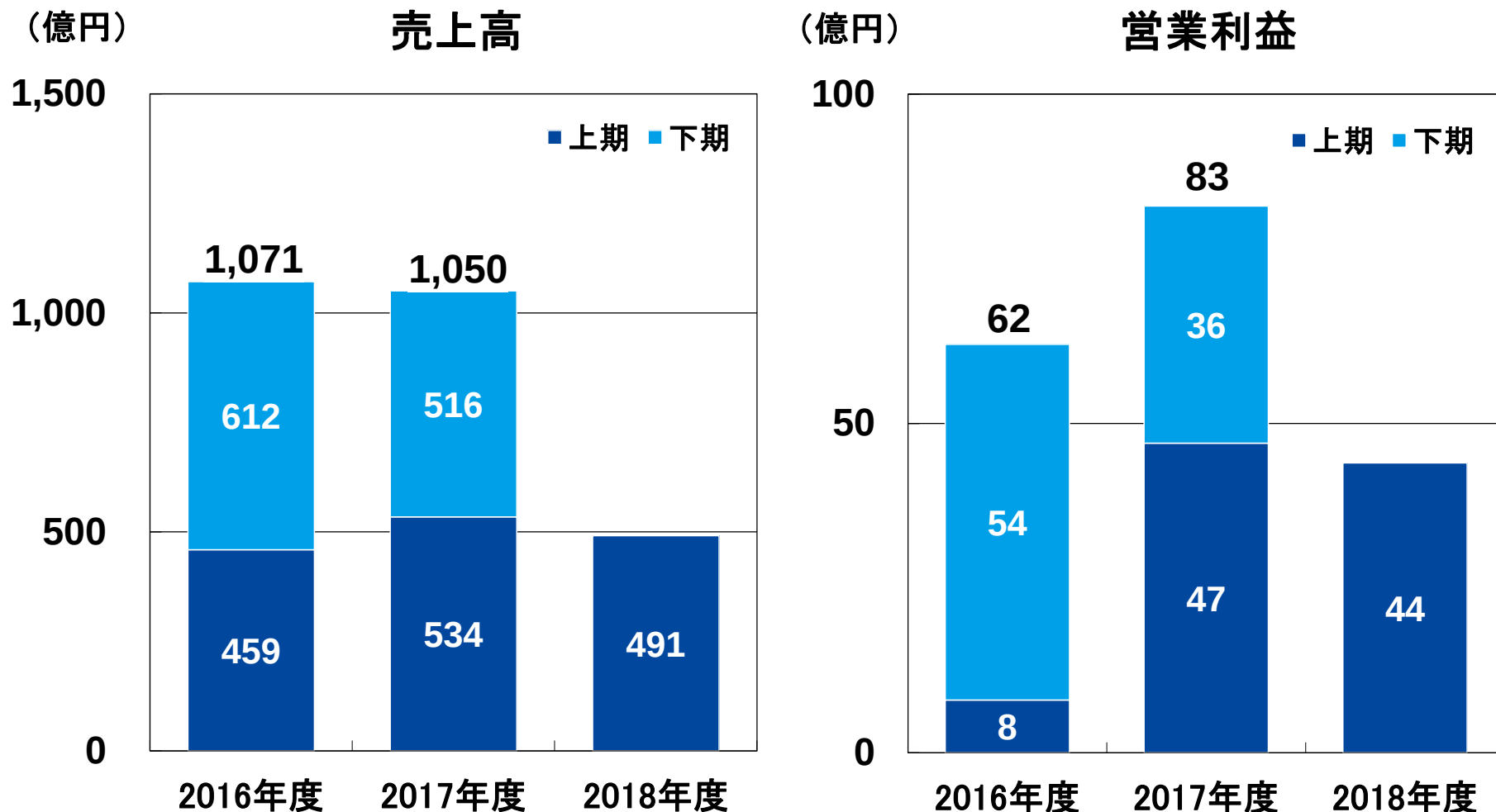
50

0

※販売管理費:0



地域別売上高・営業利益(日本)



※ 売上高は、得意先の減産影響により、8.1%減収

※ 営業利益は、合理化効果等はあったものの、売上減の影響により、6.4%減益

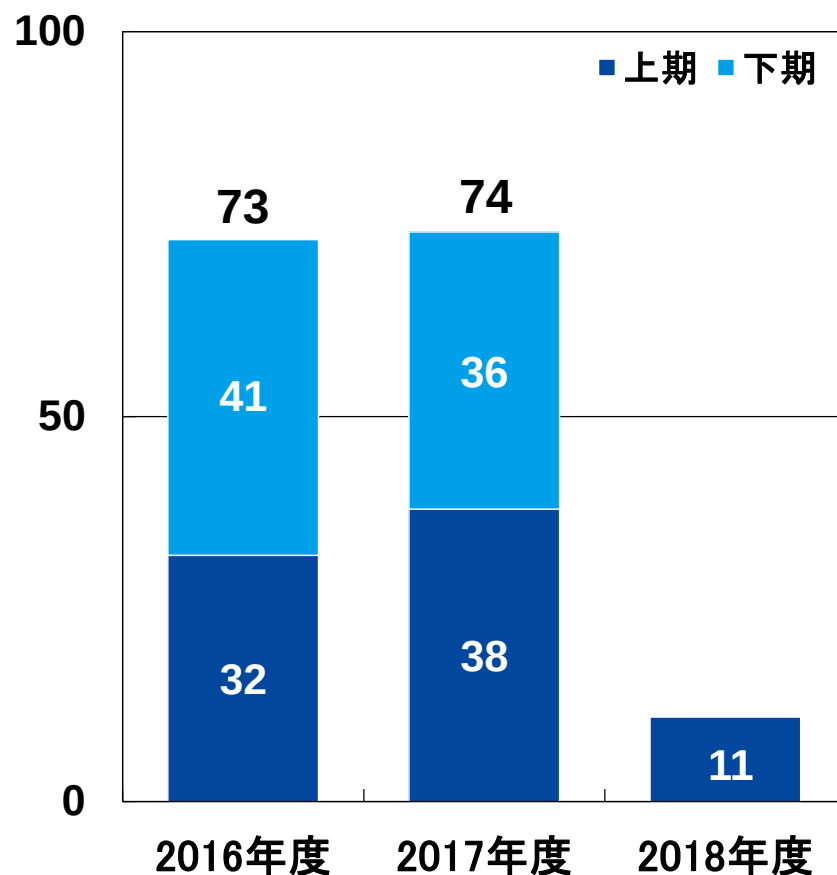
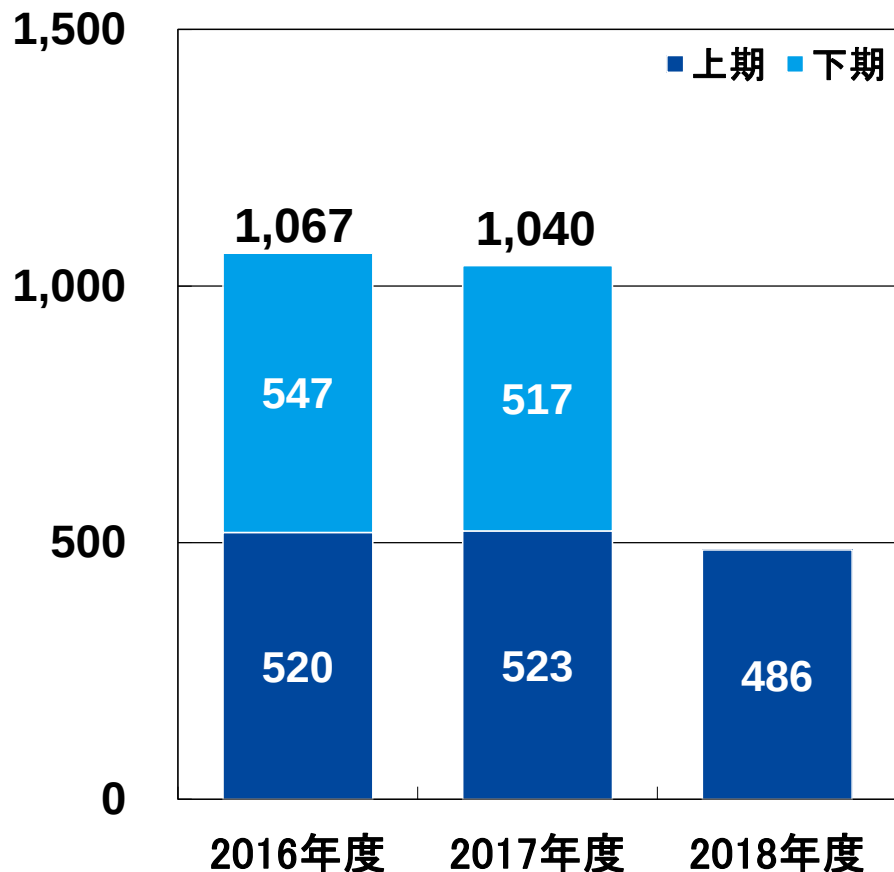
地域別売上高・営業利益(米州)

(億円)

売上高

(億円)

営業利益



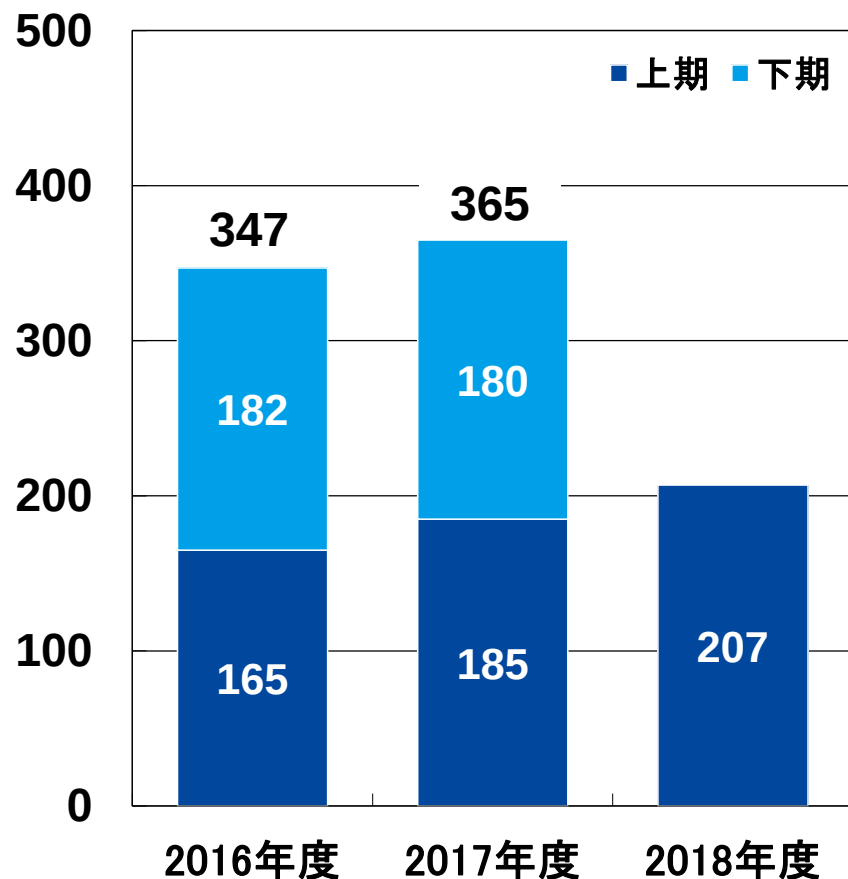
※ 売上高は、得意先の減産影響等により、7.1%減収

※ 営業利益は、売上減の影響により、71.1%減益

地域別売上高・営業利益(欧州)

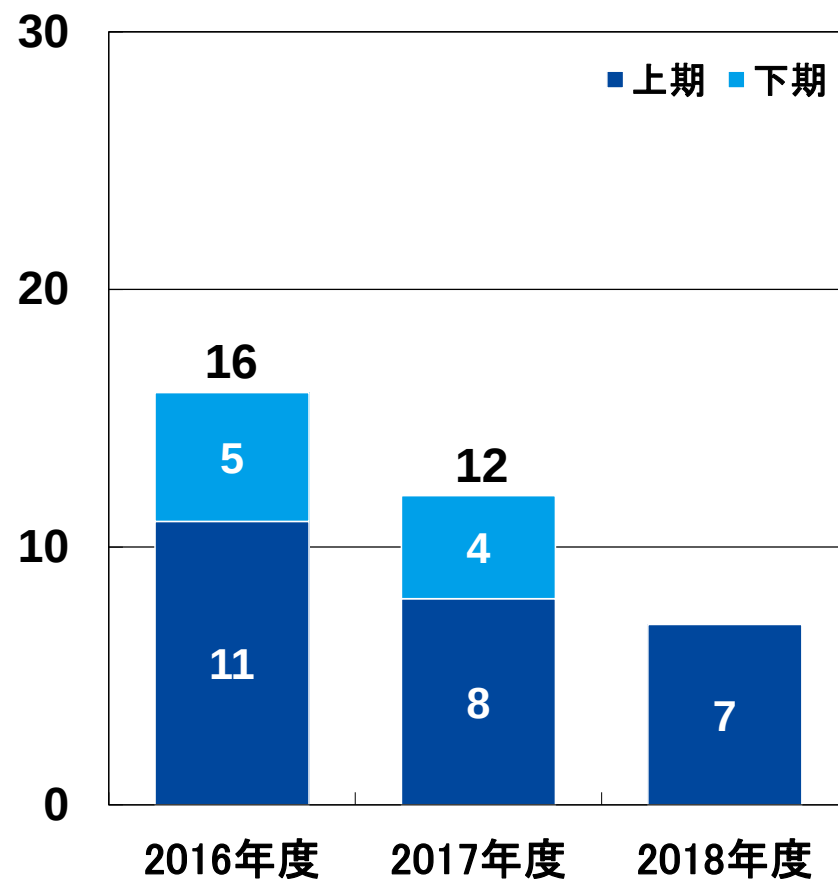
(億円)

売上高



(億円)

営業利益



※ 売上高は、為替換算影響等により、11.9%増収

※ 営業利益は、1億円減益

地域別売上高・営業利益(アジア)

(億円)

売上高

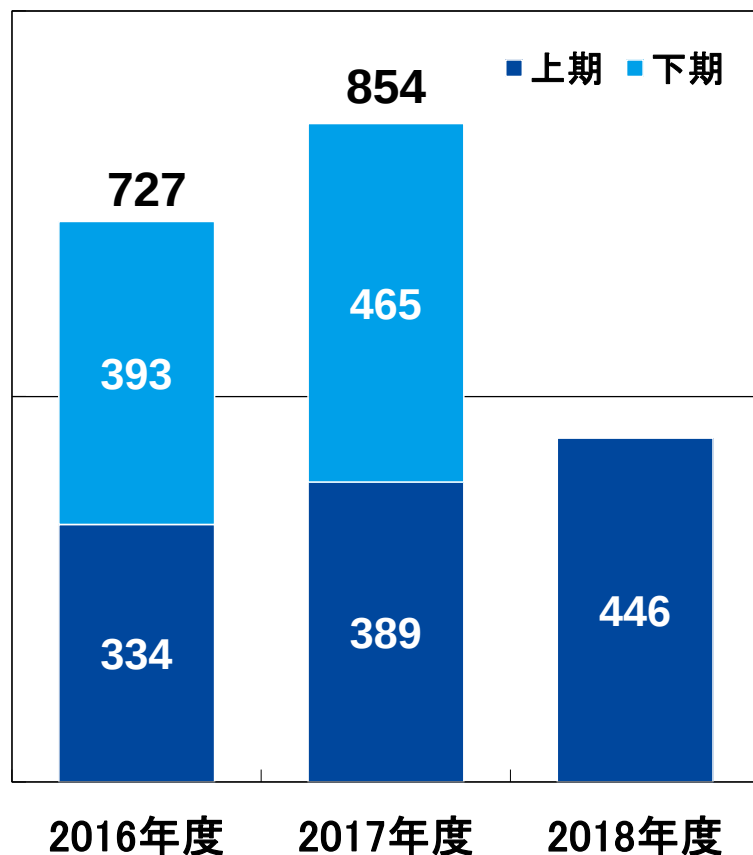
(億円)

営業利益

1,000

500

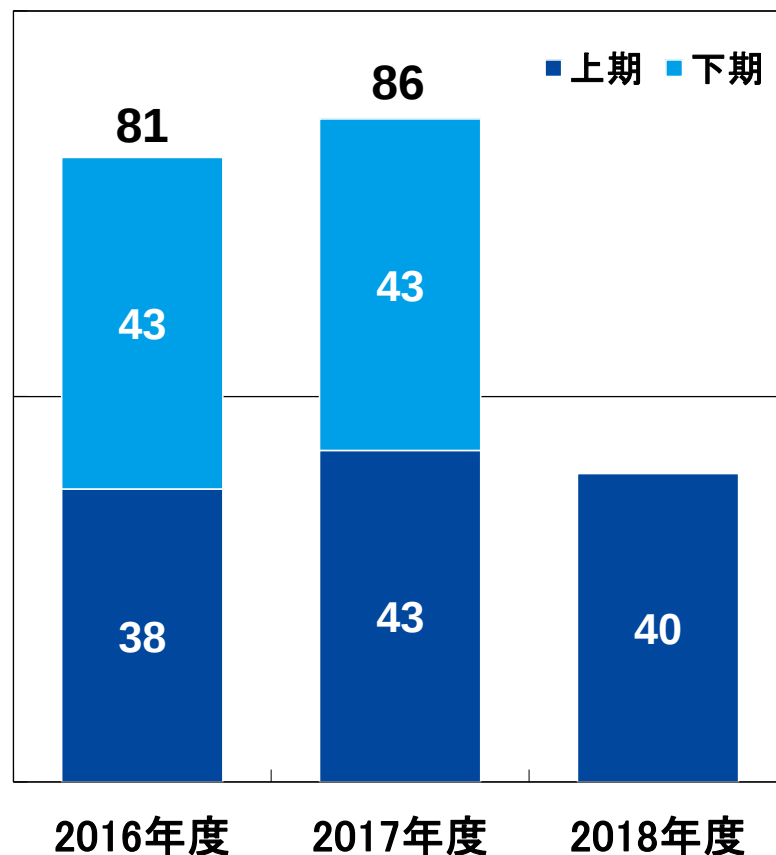
0



100

50

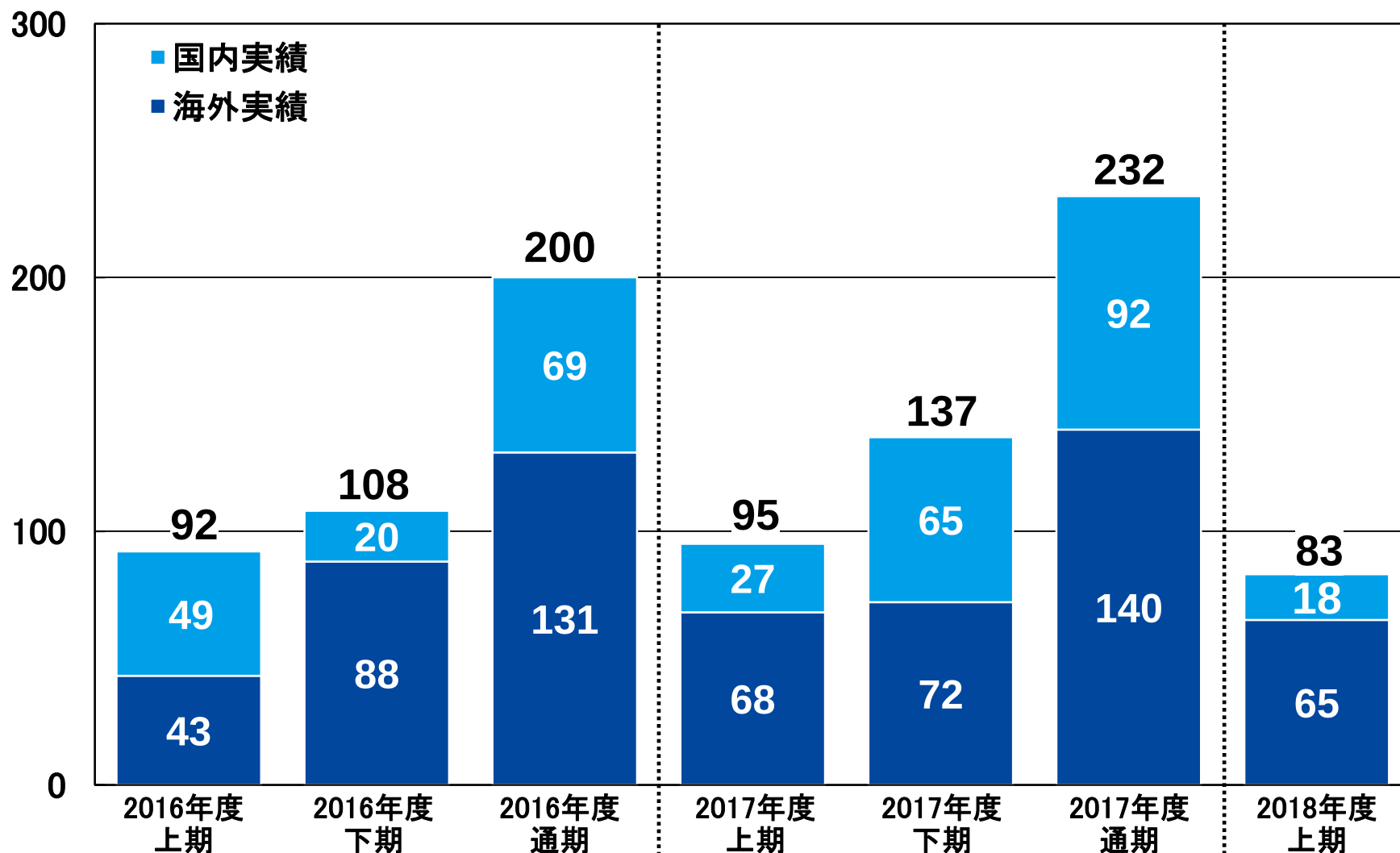
0



※ 売上高は、得意先の増産影響および為替換算影響等により、14.7%増収

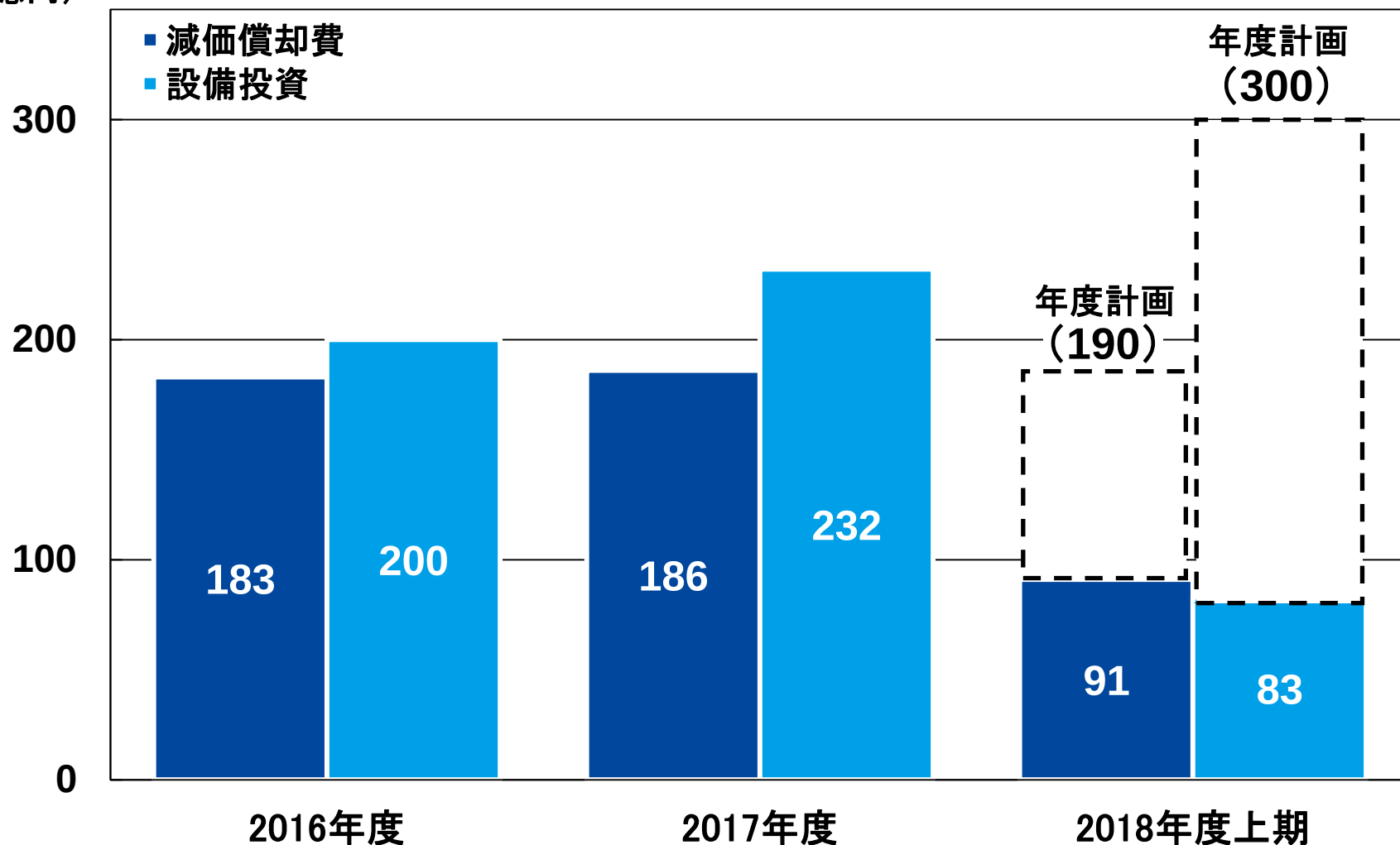
※ 営業利益は、急激な増産に対応する費用の発生もあり、7.0%減益

(億円)



設備投資・減価償却費推移

(億円)

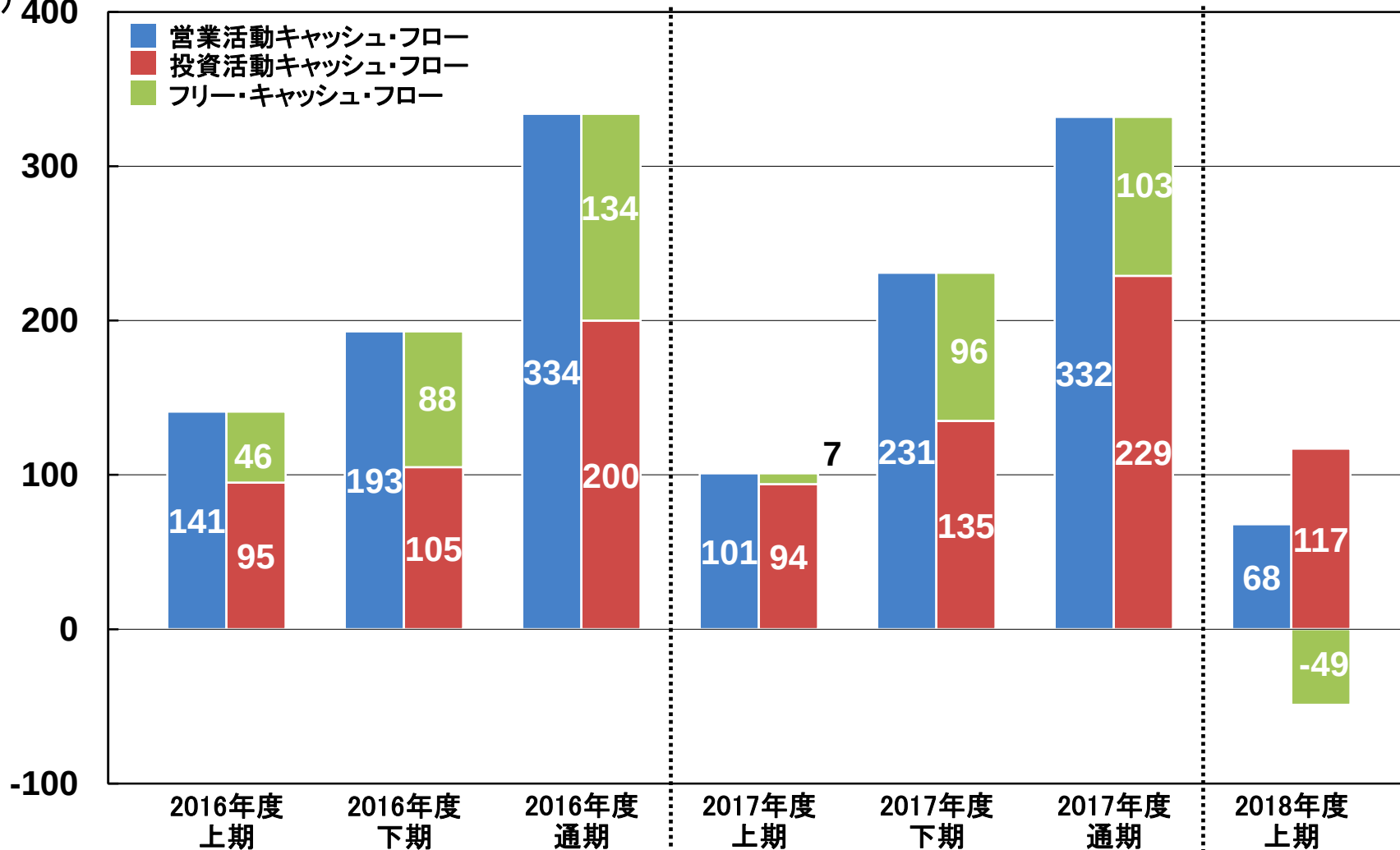


※ 減価償却費・設備投資ともに、ほぼ計画通り



キャッシュ・フロー

(億円)

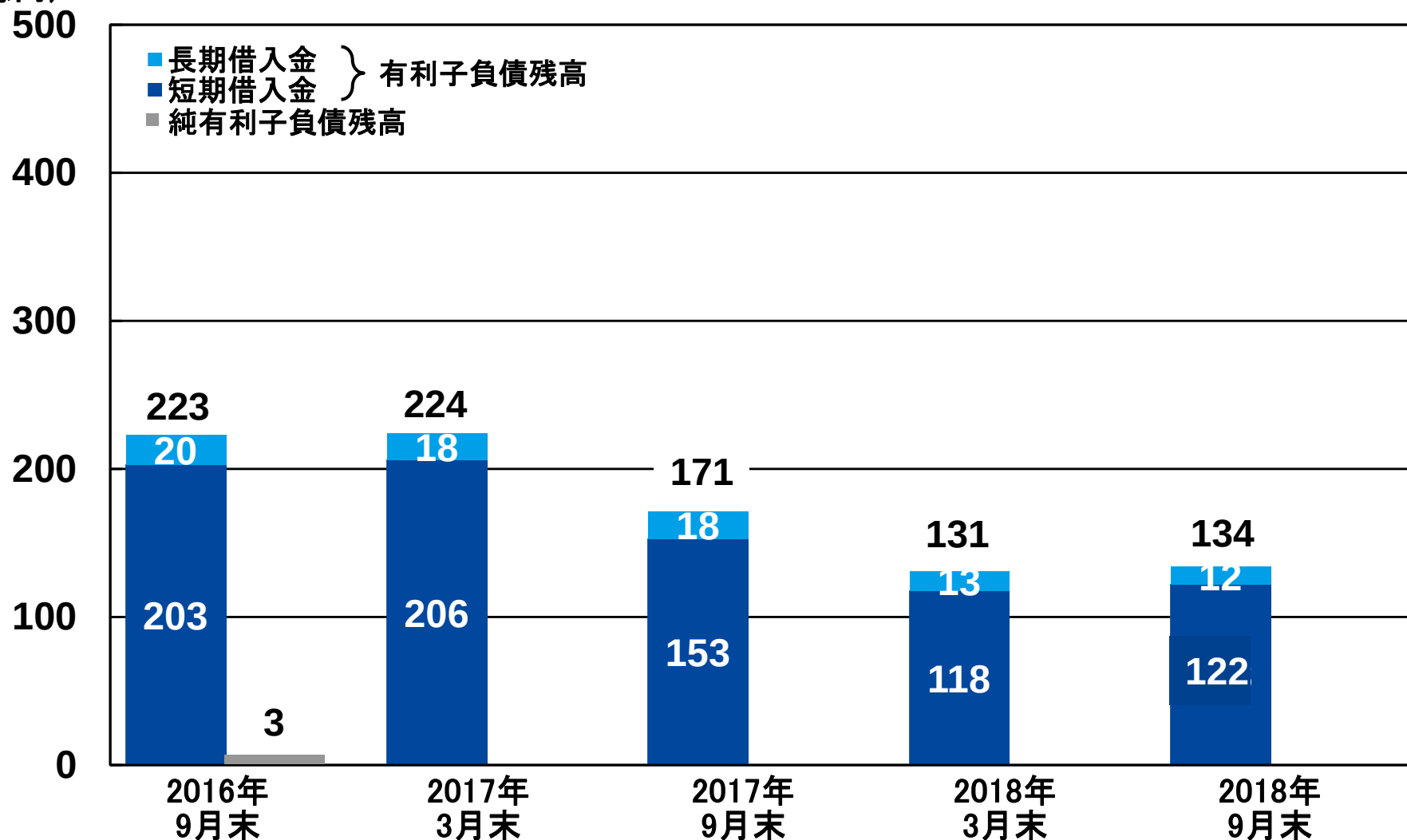


※ 生産基盤強化等、将来に向けての投資を行ってきておりフリー・キャッシュ・フローはマイナス



有利子負債・純有利子負債残高の推移

(億円) UNIPRES



※ 有利子負債は、前年度末に対して3億円増加



自己資本比率の推移



※ 前年度末に対し、+2.9%の60.4%



2018年度見通しについて

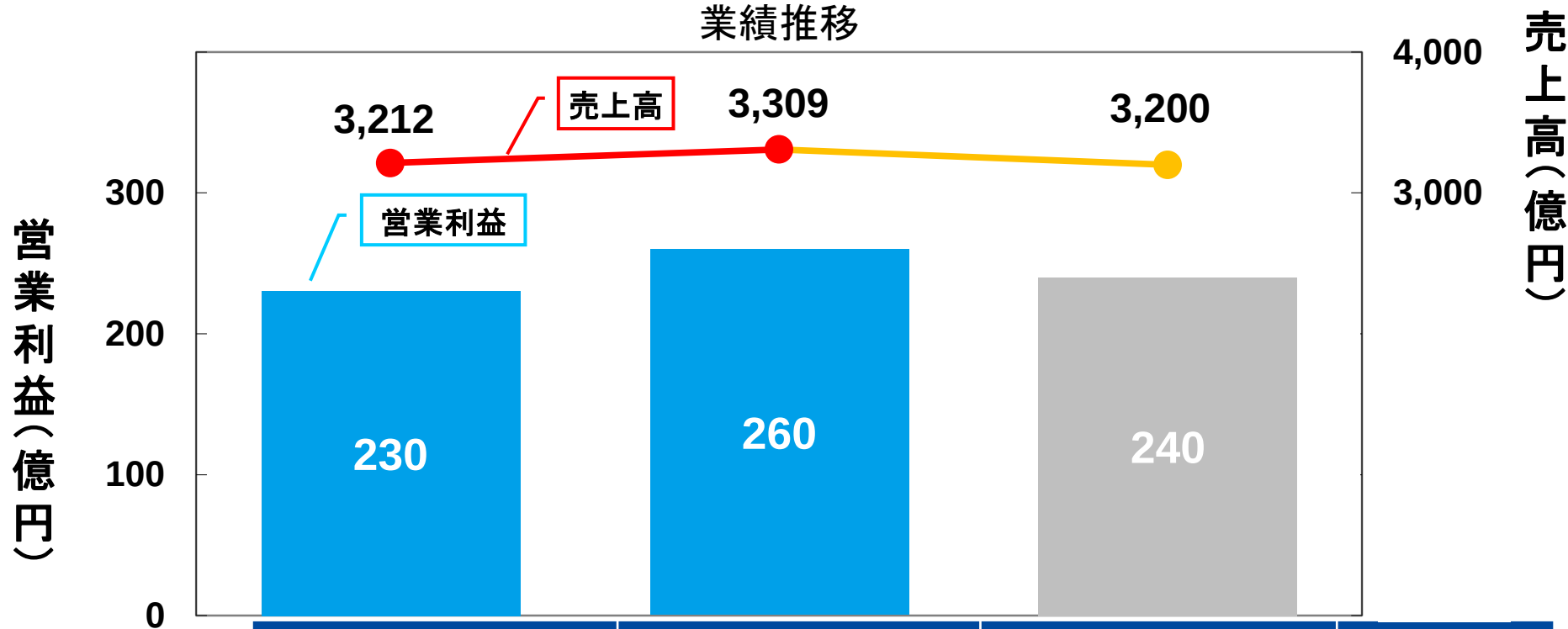
1. 売上高は、為替換算影響等により減収

2. 営業利益は、売上減の影響並びに為替換算影響により減益

3. 生産基盤強化等の為、高水準の設備投資を計画

2018年度連結業績計画サマリー

業績推移



	16年度	17年度(A)	18年度(B)	(B)-(A)
売上高	3,212	3,309	3,200	-109
営業利益	230	260	240	-20
経常利益	230	264	245	-19
親会社株主に帰属する当期純利益	144	159	150	-9



将来に向けた基盤作り



1. 技術開発



(1) 車体部品事業 技術開発の取り組み

ホットスタンプ(導入計画)

新車受注にあわせて更に追加導入を決定

ユニプレスイギリス

■1ライン

■2020年度 稼働予定

+

ユニプレスイギリス

1ライン

ユニプレス九州

■1ライン

■2019年度 稼働予定

ユニプレスアラバマ

■1ライン

■2020年度 稼働予定

東風ユニプレス
ホットスタンプ(広州)

■1ライン

■2019年度 稼働予定

栃木工場(小山)
2ライン

ユニプレスメキシコ

■1ライン

■2019年度 稼働予定

自動化・智能化モデルラインの構築

無人化工場を目指し、中国拠点をモデル工場として、
各アイテムの自動化・智能化を推進

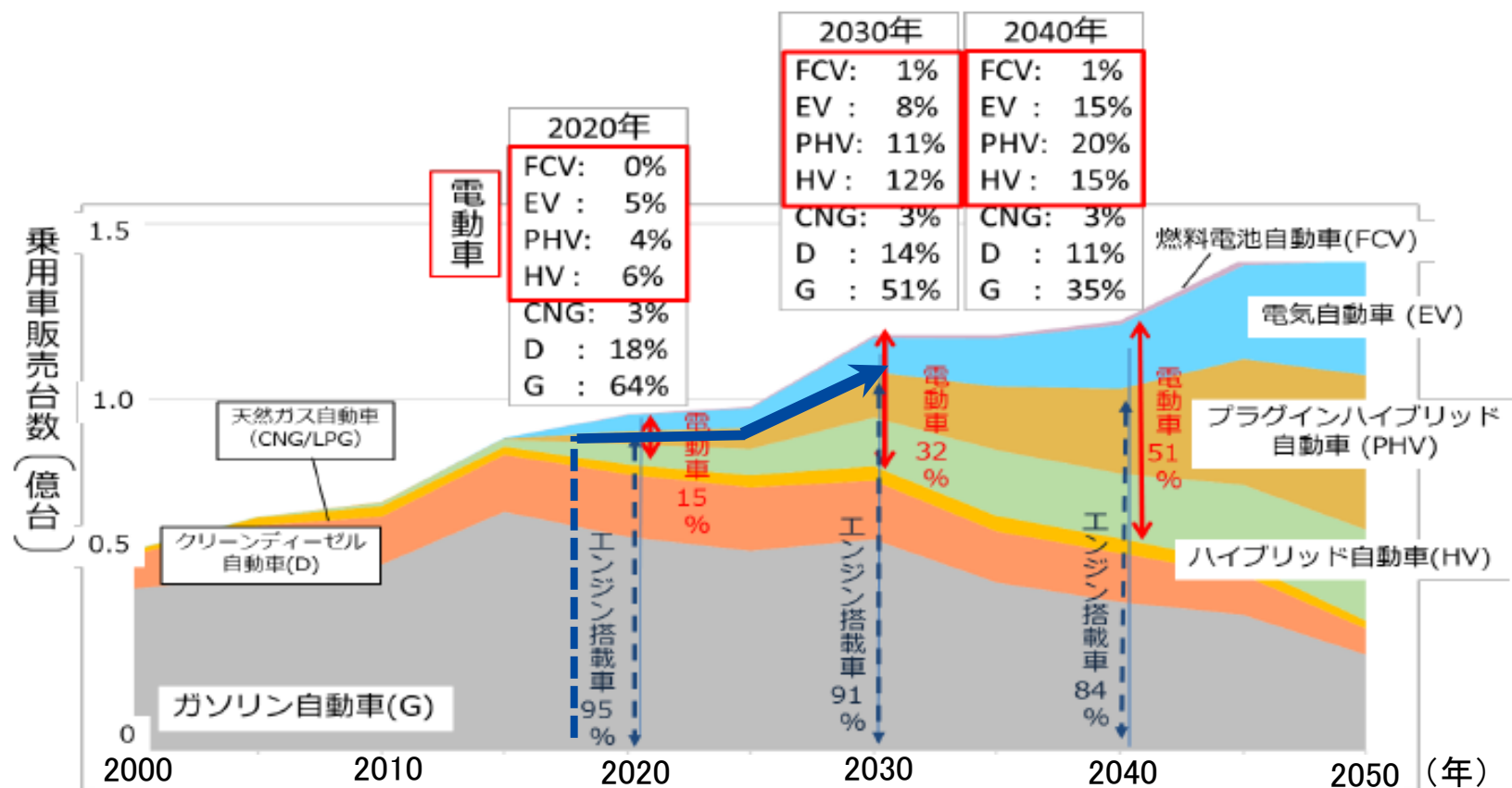
区分		No	活動アイテム	目的・狙い
自動化	プレス	1	コイル自動セット	クレーンマン工数削減
		2	ブランキング パイラー自動化	荷姿工数削減
		3	blank材AGV搬送	クレーンマン工数削減
		4	トランスファープレス自動荷姿	荷姿工数削減
	物流	5	プレス単品物流のAGV化	フォーク工数削減
	組立	6	組立ラインの自動化	直接員工数削減
		7	Assy品/単品自動在庫/配送	フォーク人員削減
智能化	プレス 組立 物流	8	生産情報システム	データ集計工数削減
		9	諸表作成の智能化	報告書作成工数削減
		10	オーダー生成の智能化	生産手配工数削減
		11	知能保全システム(予兆監視)	保全人員削減
		12	品質測定システム	精度保証、工数削減



(2) トランスミッション部品事業 技術開発の取り組み

IEA予測では2030年:EV+FCV 9%、HEV 23%

⇒内燃機関 & HEVの生産はまだ伸びるため、TM部品の拡販は継続する。



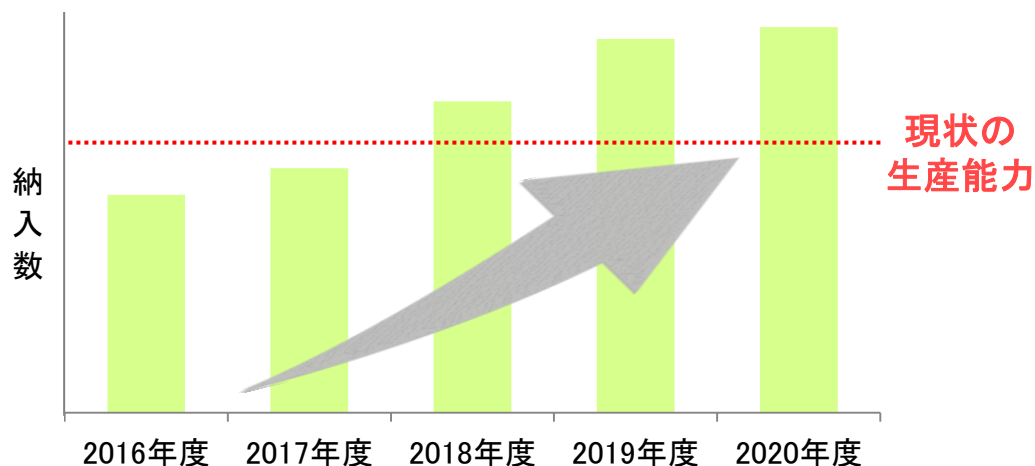
経済産業省「自動車新時代戦略会議(第1回)資料」より抜粋

(出所) IEA「ETP(Energy Technology Perspectives) 2017」に基づき作成

トランスミッション部品事業のスタート当初から比べ、製品領域が拡大し、生産台数の増加と共に部品の厚板、高強度、大型化が進み、プレス機の大型化・機能向上が求められる。

	1979年～	2002年～	2008年～	2015年～
生産 部品群	【ステップAT歯形部品】 			
		【CVTプランジャー部品】 		
			【トルクコンバータ大型部品】 	
				【ダンパー部品】 
板厚	t1.6～5.3	t1.6～7.6		
材質	270材	370～440材	370～590材	
製品外寸	～Φ183	～Φ193	～Φ390	

- ・既存部品の増産と他社拡販における生産台数の増加
- ・高精度/高難度部品の生産対応に向けた体制強化



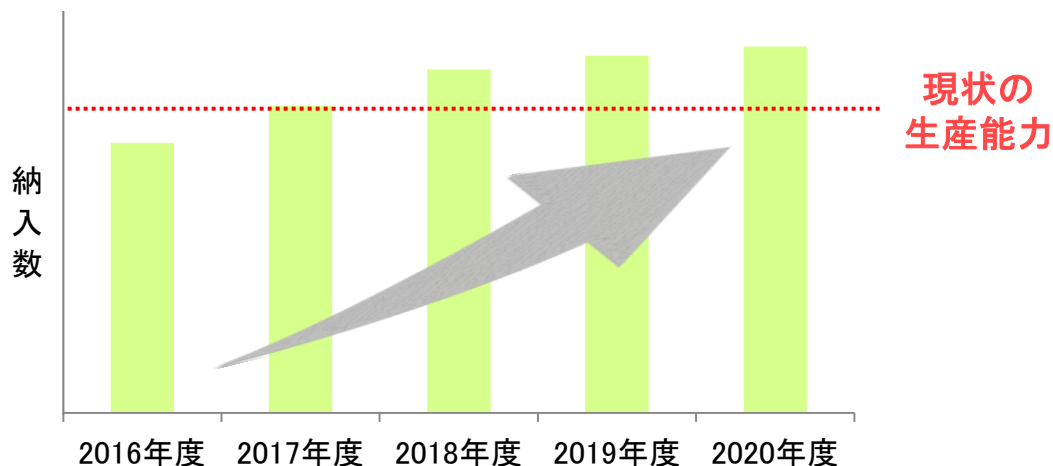
プレス設備の新規導入計画

既存トランスファープレス	
2500トン	1台
1200トン	1台 他

+

新規トランスファープレス	時期
1500トン 1台	2019年1月
2000トン 1台	2020年3月

- ・ジヤトコメキシコ向け新規受注による
歯形成型部品増加



プレス設備の新規導入計画

既存油圧プレス

150トン 1台

+

新規トランスファープレス

630トン 1台

時期

2018年11月



2. 拡販

2017年度新車立上げ実績と今後の見通し

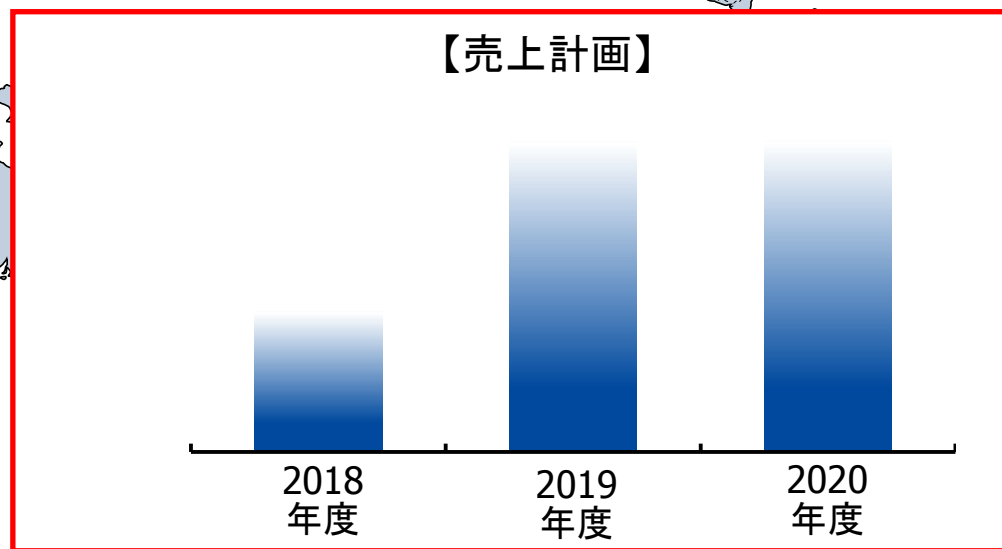
	2017	2018	2019	2020
日本	★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★
米州	★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★
欧州	—	—	★	★
アジア (中国・タイ・ インド・ インドネシア)	★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	★ ★ ★
計	12	17	18	15

- ・ 2018年度はグローバルで17車種の新車立上げを計画

日産「新型アルティマ(ティアナ)」受注状況



新型アルティマ

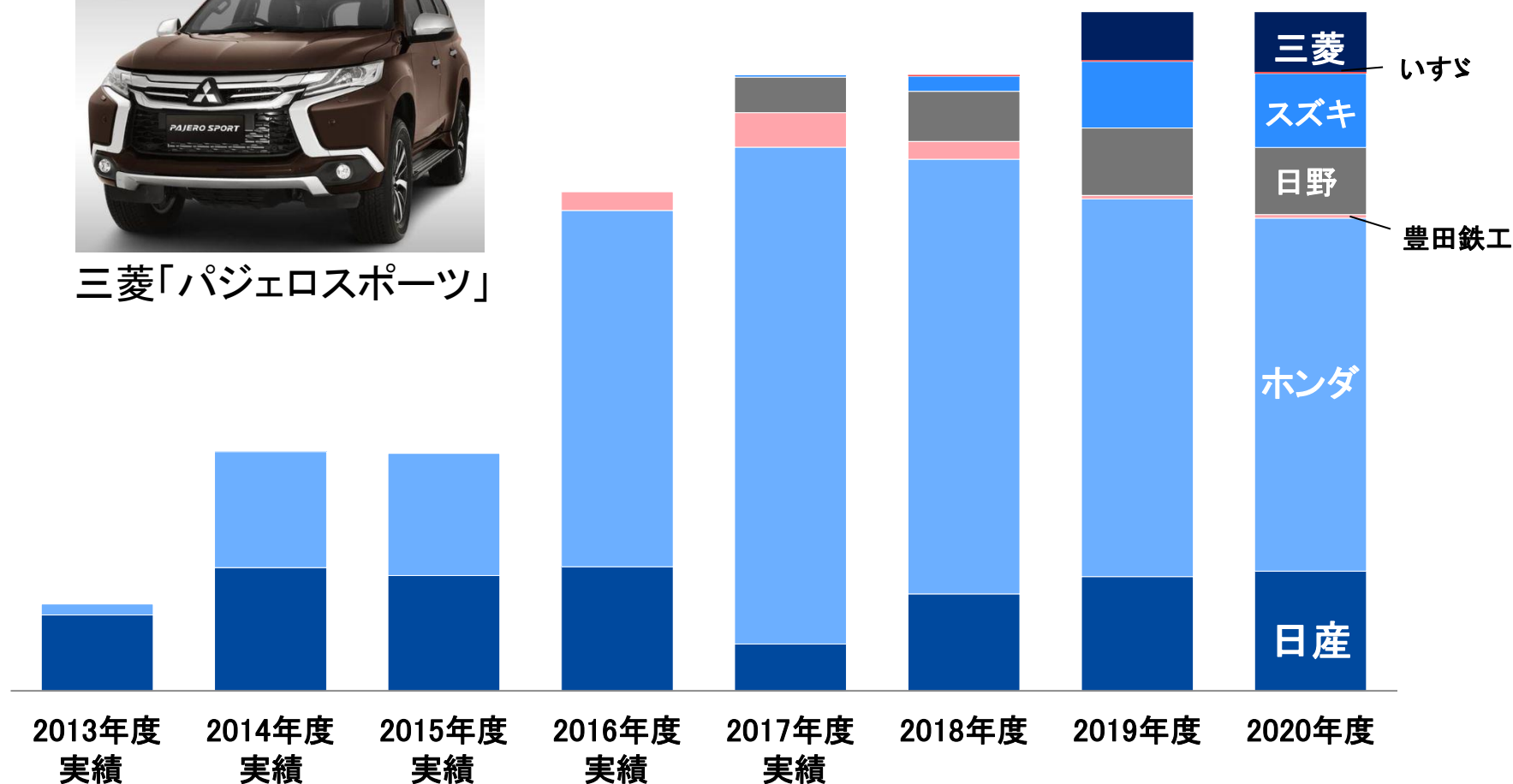


- ・「新型アルティマ(ティアナ)」をアメリカに続き、中国で受注

インドネシア 得意先別売上見通し



三菱「パジェロスポーツ」



・メタルテックとの協業により、三菱自動車から海外拠点で初受注

ホンダへの拡販状況（樹脂事業）

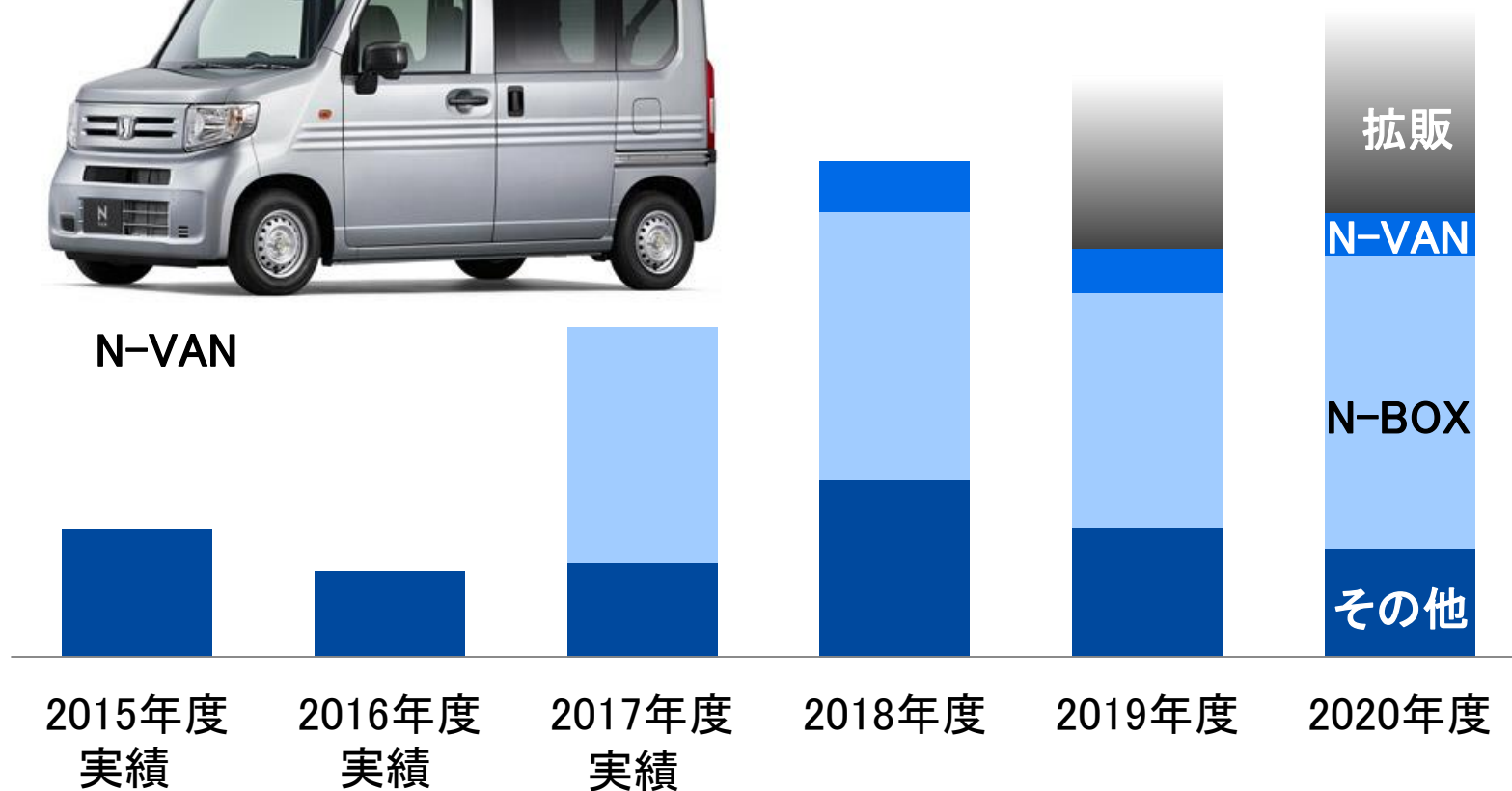
<売上計画>

●新規受注車種

※その他・・・FIT-EV・LEGEND・S660



N-VAN



・Nシリーズを中心に、ホンダ向けの売上拡大を目指す



『オートモーティブ ワールド2019』出展

クルマの先端技術分野において世界最大の展示会である
「オートモーティブ ワールド」に2年連続出展を決定



【オートモーティブワールド2019】
会期:2019年1月16日～18日
会場:東京ビッグサイト

※写真は前回出展内容





UNIPRES

2018年8月に
「ユニプレス CSRレポート 2018」を
発行いたしました。

ユニプレス株式会社のウェブサイトに
掲載しておりますので是非ご覧ください。
<https://www.unipres.co.jp/csr/report>



	2017年度 上期		2018年度 上期		2018年度 計画前提
	期中平均	期末	期中平均	期末	
米ドル	111.30	112.74	110.71	113.58	105.00
英ポンド	142.29	145.82	148.92	144.55	147.00
ユーロ	122.18	127.95	130.66	127.88	129.00
ペソ	5.85	6.22	5.71	5.60	5.50
人民元	16.36	16.49	17.01	16.67	16.20
ルピー	1.73	1.72	1.61	1.57	1.60
バーツ	3.25	3.30	3.41	3.33	3.35
ルピア	0.0084	0.0084	0.0079	0.0077	0.0080